


日本の人口減少に関する重要データ集


～人口動態の観点から持続可能な社会とは～

(株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部
人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子

2022年11月21日 於：中央合同庁舎8号館
「小倉内閣府特命担当大臣 関係団体・有識者等との対話①（人口減少・持続可能な経済社会）」



少子化問題は
子ども問題でも
お母さん問題でもありません
人口減少問題です



人口問題は
全ての地域問題の
最上流に在る問題
といえます



経済、SDGsの基盤は人口にあり




人口は労働力（供給）の基盤

人口は消費（需要／お客様）の基盤

人口は未来社会（未来経済）の基盤

人口は社会保障／財政の基盤





1.なぜ少子化が止まらないのか 正しい統計的 理解を

— 誤解に基づいた地方創生・少子化施策の迷走 —

— 誤解に基づいた地方創生・少子化施策の迷走 —



合計特殊出生率 TFR

「夫婦がもつ子どもの数」

ではありません

ほぼ既婚女性
赤ちゃん数

未婚女性数

既婚女性数

日本の婚外子比率は2%で推移のため
未婚女性の出生率はほぼ0とみなせます

※婚外子を増やせばいい、はOECDシングルマザー最貧国という日本の女性労働課題の是正がセットです

「夫婦が持つ子どもの数」
が不変でも、未婚化が進めば
TFRは低下します

合計特殊 出生率とは

- 合計特殊出生率・TFR = 1.5を「最近の夫婦は1.5人子どもを持つらしい」は間違った解釈です
- そのエリアに住む15歳から49歳の全女性 = 未婚女性 + 既婚女性の1歳ごとの出生率を足しあげた統計指標です
- X年のA市のTFRとは、X年にA市に住む15歳から49歳の全女性のライフデザイン動向(結婚動向 + 出産動向)からみた「生涯に授かるであろう」女性1人当たり子どもの数の予想平均値です

出生数 = (カップル当たりの子ども) × (カップル数) どちらが原因なのか？

1970～2021年時系列データ間の相関分析

年	A出生数	B婚姻総数	C				A/B 出生数	A/C 出生数	
			C初婚同士	再婚同士	夫再婚・妻初婚	夫初婚・妻再婚			
1970	1,934,239	1,029,405	914,870	32,776	52,846	28,913	1.9	2.1	
※	※1970年から2010年は5年ごとのデータ、2010年以降は毎年のデータの時系列データ								
2021	811,622	501,138	370,911	49,052	46,872	34,303	1.6	2.2	
出生数推移との 相関係数	-	0.93	0.96	-0.82	-0.44	-0.59	全出生数を初婚夫婦 1単位あたり出生数 の計算では減少傾向 はみられない		
判定	-	強い正の相関	強い正の相関	強い負の相関	負の相関がある	負の相関がある			
2021/1970	42%	49%	41%	150%	89%	119%			

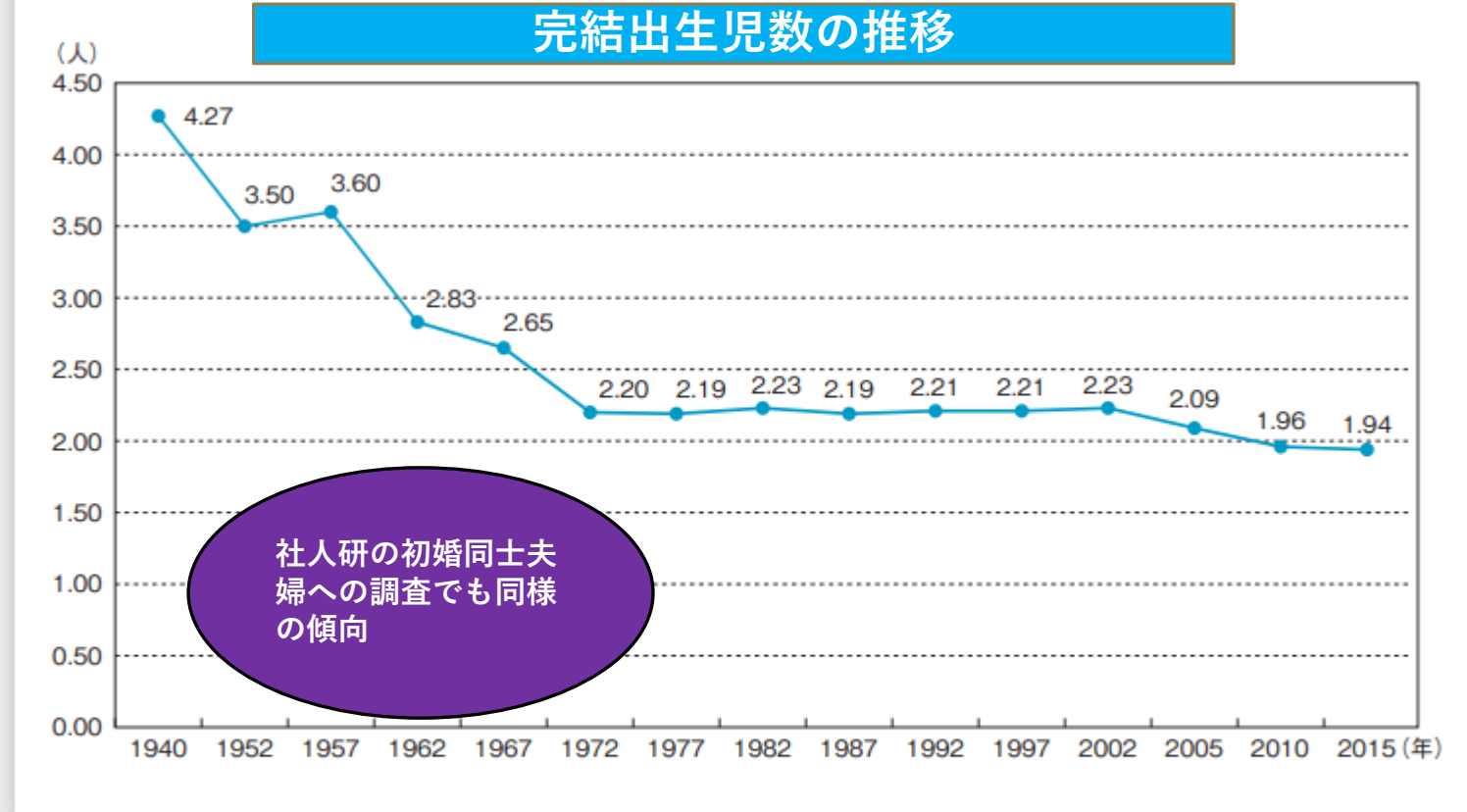
日本の出生数は「初婚同士の婚姻数」にほぼ完全一致する形で、42%水準にまで激減している。初婚同士夫婦当たりの子どもの数は、ほとんど減っていない(激減に対する説明としては不十分)傾向にあることが示唆されている。

初婚同士夫婦が最終的にもつ子どもの数は 1970年代から長期に約2人を維持(出生数6割激減の理由にならない)

※完結出生見数
初婚同士のカップルが
結婚後15-19年後に
授かっている子どもの数
(夫婦の最終的な子供
の数ともいわれる)


「夫婦が子どもを持た
(て)なくなった。
だから子育て(≒既婚
者)支援だ」

は典型的なアンコンシャ
ス・バイアス(無意識の
偏見)を伴う誤解



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2015年)

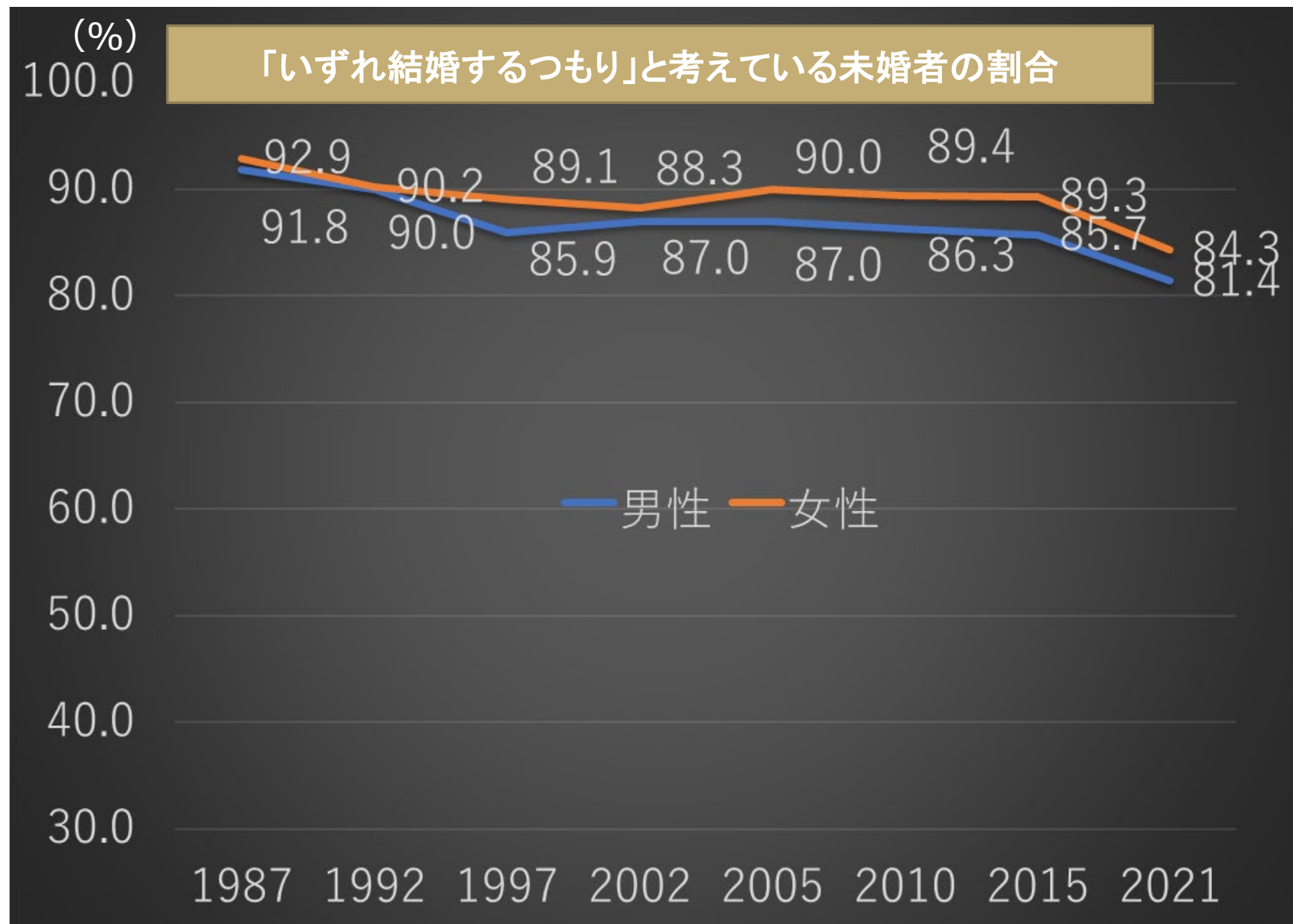
注：対象は結婚持続期間15~19年の初婚どうしの夫婦(出生子供数不詳を除く)。横軸の年は調査を実施した年である。



2.若者の希望する ライフデザイン への理解が 未婚化解消の要

-エビデンスに基づいた地方創生・少子化施策-

18歳から34歳の未婚男女の結婚意志はともに8割超をキープしており、大きく低下していないが...



若い世代の理想の家族は「夫婦共働き」

(2021年 第16回出生動向基本調査でも圧倒的な1位)

※参考・非婚就業希望は女性12.2%・男性6.5%

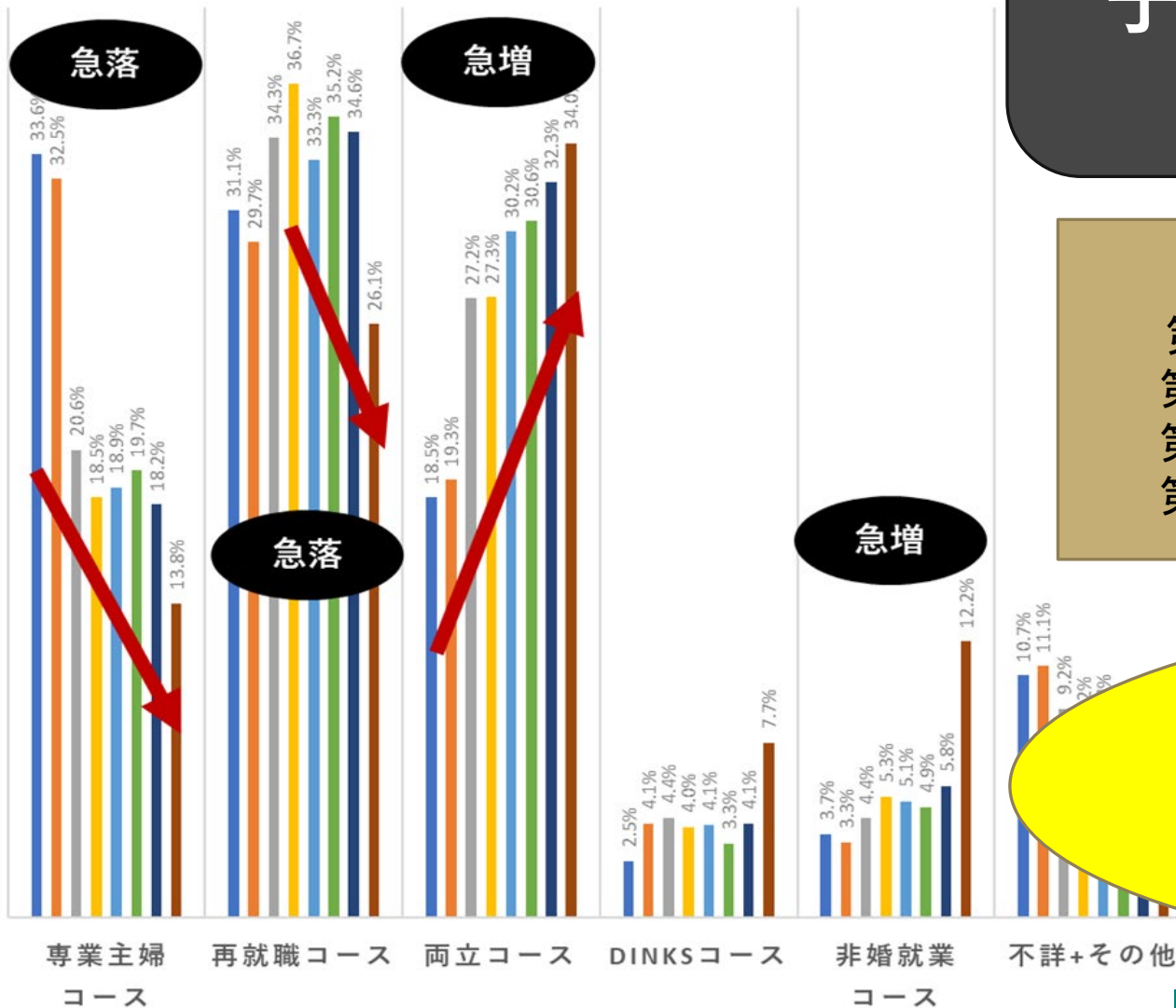
今の20代男女は「全員」
バブル崩壊（1991-1993）後に
出生したベビー（29歳は93年出生）

「背中をみて育った夫婦の姿」
が上の世代とは全く違います

若い世代のライフデザインとは？

18歳～34歳の未婚女性の理想ライフコース

■ 第9回(1987) ■ 第10回(1992) ■ 第11回(1997) ■ 第12回(2002)
■ 第13回(2005) ■ 第14回(2010) ■ 第15回(2015) ■ 第16回(2021)



18-34歳（結婚適齢期）の未婚女性
専業主婦希望は13.8%へ急減
子育て期は仕事を辞めたい希望女性も26.1%に急減

回答者の2022年現在年齢

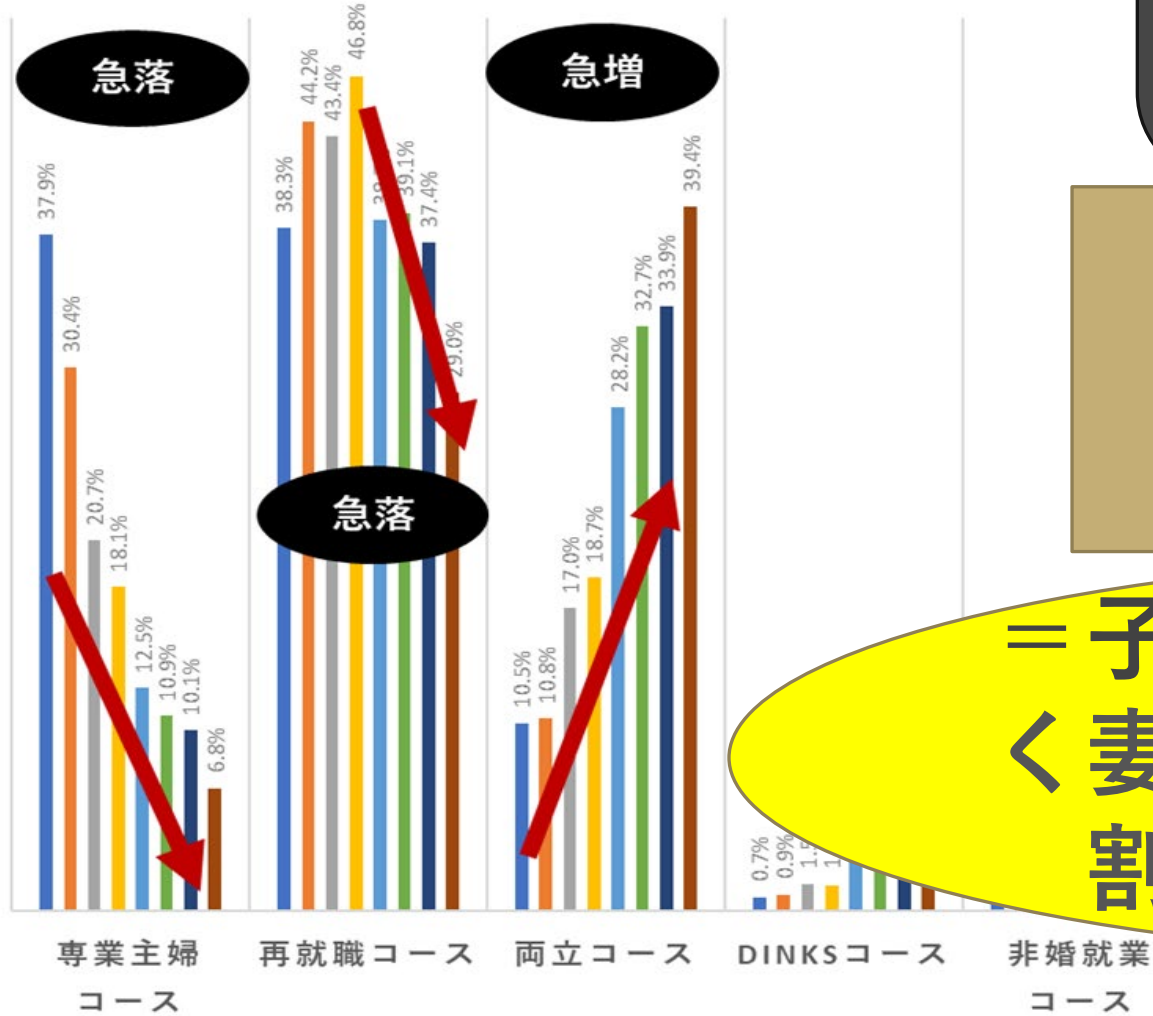
第9回調査	現在53-69歳	第10回調査	現在48-64歳
第11回調査	現在43-59歳	第12回調査	現在38-54歳
第13回調査	現在35-51歳	第14回調査	現在30-46歳
第15回調査	現在25-41歳	第16回調査	現在19-35歳

=子育て期にやめることなく一生働きたい女性が1/3超で最多

若い世代のライフデザインとは？

18歳から34歳の未婚男性が
パートナーに望むライフコース

■ 第9回(1987) ■ 第10回(1992) ■ 第11回(1997) ■ 第12回(2002)
■ 第13回(2005) ■ 第14回(2010) ■ 第15回(2015) ■ 第16回(2021)



18-34歳（結婚適齢期）の未婚男性
専業主婦の妻希望は6.8%へ急減
（女性より少ない）

子育て期に仕事をいったん辞め
る妻希望も29.0%に急減

回答者の2022年現在年齢

第9回調査	現在53-69歳	第10回調査	現在48-64歳
第11回調査	現在43-59歳	第12回調査	現在38-54歳
第13回調査	現在35-51歳	第14回調査	現在30-46歳
第15回調査	現在25-41歳	第16回調査	現在19-35歳

= 子育て期にやめずに一生働
く妻と結婚したい男性が約4
割（男性 > 女性）へ急増

未婚化社会は「高学歴化した女性の意識変化」のせいだ！

と令和の今でもまだ思っていないませんか？

女性の、ではなく、若者たちの家族観・就業価値観は大きく変化してきており（しかも男性の方が共働き家庭希望割合が高い）、若い世代が新しい家族の形を切望していることにお気づきでしょうか？

福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課
「男女共同参画社会に向けての意識調査報告書」(2020年)

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(〇印は1つ)

福岡の18～29歳までの男性の約8割が反対派
(女性は約6割)。女性活躍の進まない社会は若年男性を最も苦しめることに気づきたい。

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(○印は1つ)

(%)

		標本数	同感する	ある程度同感	あまり同感しない	同感しない	無回答	賛成派	反対派
全体		2,005	105	712	633	504	51	817	1,137
		100	5.2	35.5	31.6	25.1	2.5	40.7	56.7
地域別	福岡	1,036	5.8	35.5	31.7	25.1	1.9	41.3	56.8
	筑後	328	3.0	35.1	31.4	27.1	3.4	38.1	58.5
	筑豊	129	2.3	28.7	35.7	31.0	2.3	31.0	66.7
	北九州	469	6.2	37.7	30.5	22.2	3.4	43.9	52.7
	無回答	43	7.0	34.9	30.2	25.6	2.3	41.9	55.8
年齢別	女性:18~29歳	118	3.4	28.8	25.4	38.1	4.2	32.2	63.5
	女性:30~39歳	169	3.0	35.5	29.0	31.4	1.2	38.5	60.4
	女性:40~49歳	208	3.8	38.5	35.1	22.1	0.5	42.3	57.2
	女性:50~59歳	235	5.5	34.0	28.9	27.2	4.3	39.5	56.1
	女性:60~69歳	269	3.7	39.0	31.6	22.7	3.0	42.7	54.3
	女性:70歳以上	135	3.7	37.0	29.6	22.2	7.4	40.7	51.8
	男性:18~29歳	76	3.9	18.4	47.4	28.9	1.3	22.3	76.3
	男性:30~39歳	99	10.1	23.2	35.4	28.3	3.0	33.3	63.7
	男性:40~49歳	163	4.3	38.0	31.3	23.3	3.1	42.3	54.6
	男性:50~59歳	150	4.7	33.3	34.0	27.3	0.7	38.0	61.3
	男性:60~69歳	229	5.7	41.0	30.1	21.0	2.2	46.7	51.1
	男性:70歳以上	137	13.9	39.4	29.9	16.8	-	53.3	46.7
	無回答	17	5.9	35.3	29.4	29.4	-	41.2	58.8

若い世代ほど
反対派が多く、
しかも29歳までの
男性の反対
割合が
最も高い！

女性活躍推進は
いまだ「女性への
配慮」という誤解

古い家族
観が若い
世代への

「応援の
カタチ」

を歪ませる
リスク

共働き世帯の方が子どもが多い事実をご存じでしょうか？

■令和時代の世帯の姿■

●子どもがいない世帯

専業主婦世帯39% > 共働き世帯34%

●18歳未満の子あり世帯における割合

共働き世帯 : 1子世帯31%、**2子以上69%**

専業主婦世帯 : 1子世帯39%、2子以上61%

夫婦の働き方別 こどもの数は共働き世帯 > 専業主婦世帯 夫婦とも就業者 > 夫のみ就業者 (全国 2020年)

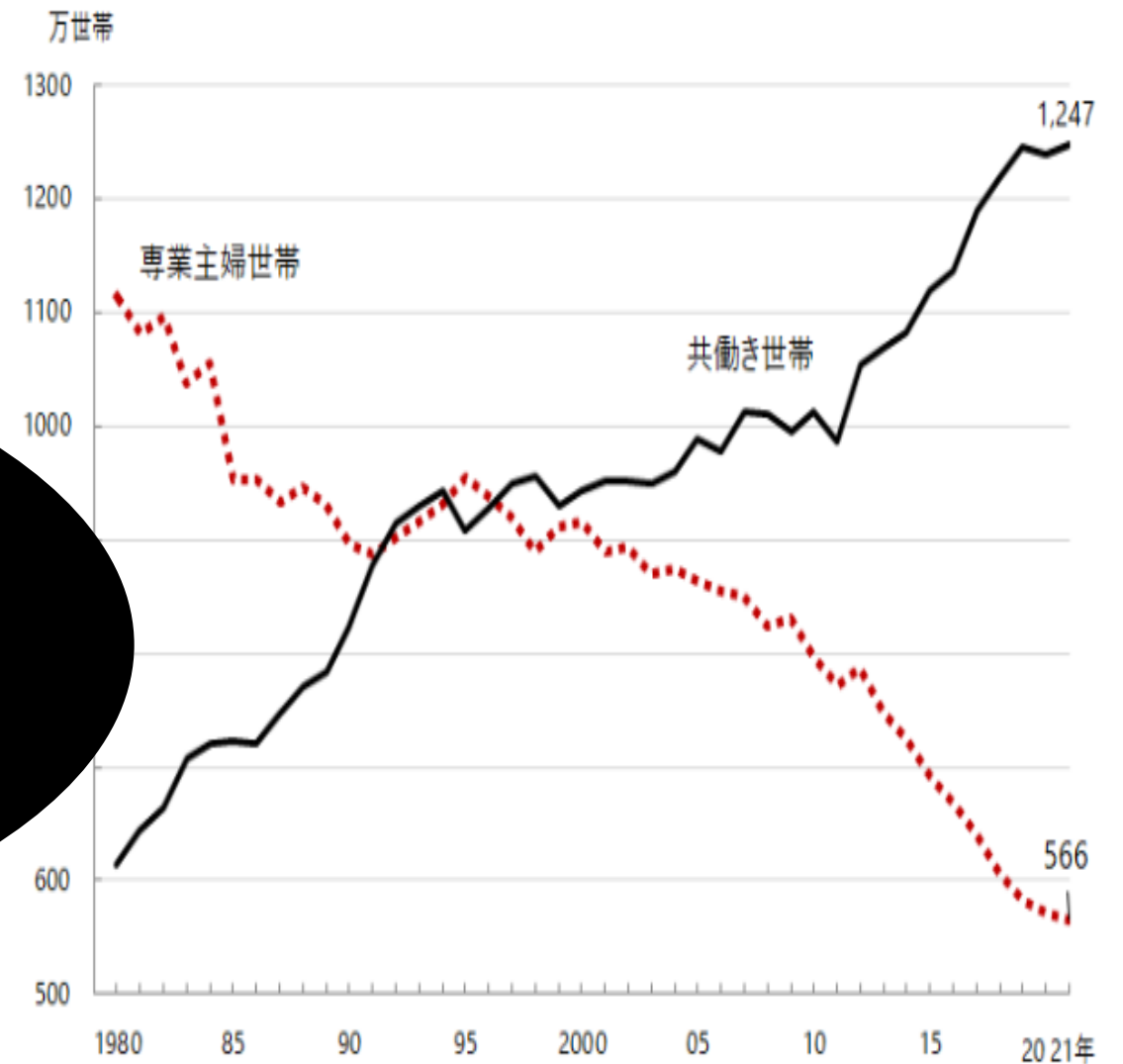
古い価値観で少子化推進？

		夫が就業者 世帯総数	子の有 無	子の数	妻就業 (共働き世帯)	子の有 無	子の数	妻非就業 (専業主婦世帯)	子の有 無	子の数	妻就業 不詳
全国	合計	19,073,686	100%		13,206,934	100%		5,816,497	100%		50,255
	子なし世帯	6,723,283	35%		4,434,948	34%		2,254,529	39%		33,806
	子あり世帯	12,350,403	65%		8,771,986	66%		3,561,968	61%		16,449
	1 8歳未満の子がいる	7,886,333		100%	5,697,675		100%	2,182,461		100%	6,197
	1人子世帯	5,693,558		-	3,825,131		-	1,858,404		-	10,023
	1 8歳未満の子がいる	2,617,763		33%	1,765,080		31%	850,583		39%	2,100
	2人きょうだい世帯	5,080,901		-	3,756,287		-	1,320,162		-	4,452
	1 8歳未満の子がいる	3,835,318		49%	2,848,239		50%	984,639		45%	2,440
	3人きょうだい世帯	1,362,348		-	1,036,362		-	324,322		-	1,664
	1 8歳未満の子がいる	1,227,156		16%	935,327		16%	290,460		13%	1,369
	4人以上きょうだい世帯	213,596		-	154,206		-	59,080		-	310
	1 8歳未満の子がいる	206,096		3%	149,029		3%	56,779		3%	288

ちなみに2021年
共働き世帯69% >
専業主婦世帯31% (全国)

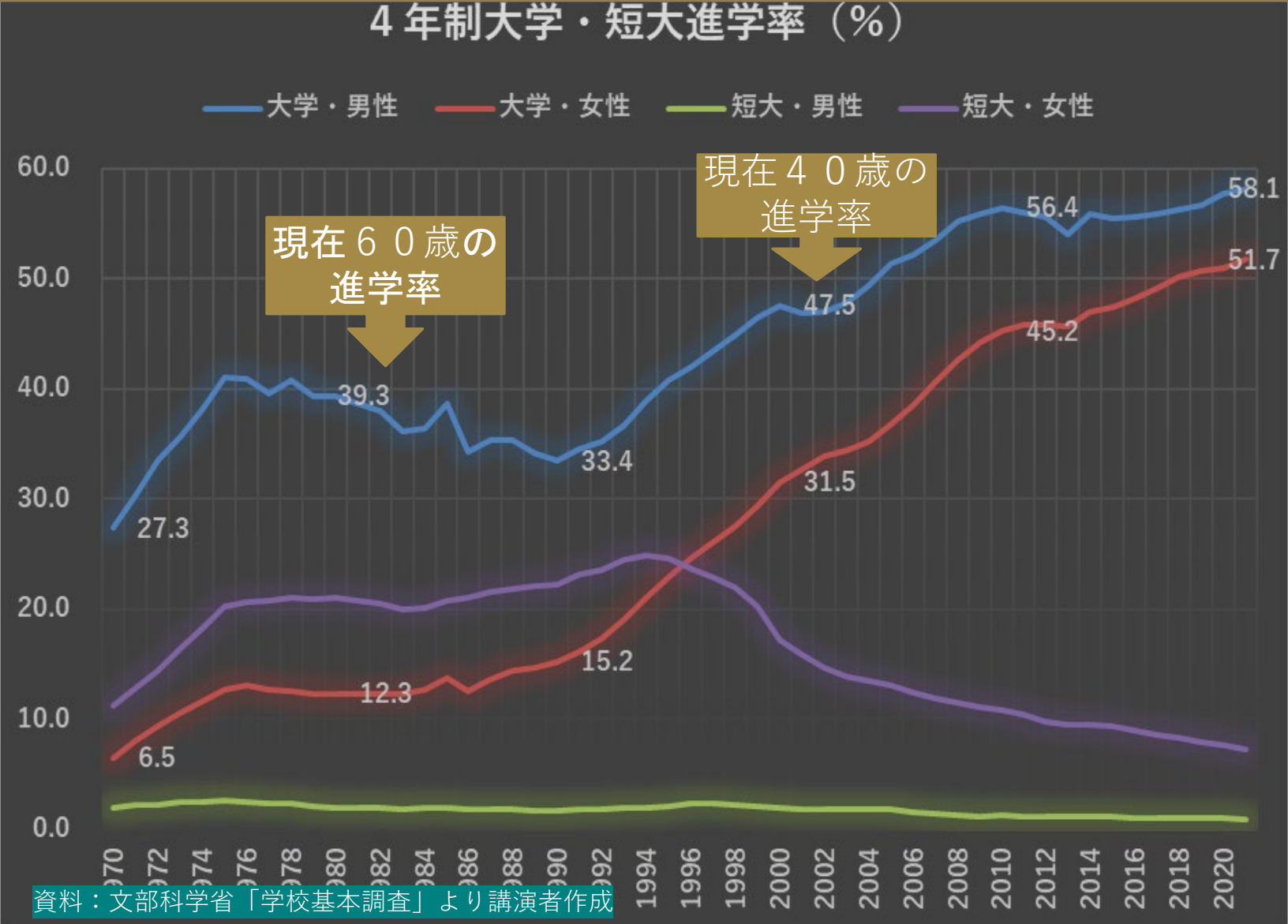
独身・既婚(離婚増加)関係なく男女ともに経済的自立を保ちつつ支い合える、労働市場改革の観点に立たねば未婚化は止まりません

専業主婦世帯前提の
80年代の家族的発想
からの脱却が必要



資料出所 総務省統計局「労働力調査特別調査」、総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」

4年制大学進学率 / 2021年 男性58% 女性52%



男女差は
わずか6 pt
同じ学びを経たの
に、与えられる就
業環境が平等で
なければ、教育と
労働のダブルスタ
ンダードに子供た
ちは苦しみかねま
せん

グラフの割合表示
左から現在70歳、60歳、
50歳、40歳、30歳、19
歳の男女の進学率

学歴格差がほぼない社会で育った男女の価値観変容

- ①男性は「経済力」を女性に求める割合が30年で大きく増加(92年27%→21年48% **22%pt増**)
- ②女性についても、男性同様に相手に「容姿」を求める傾向が増加し、男女同割合へ(92年68%→21年81% **14%pt増**)

「結婚相手に重視+考慮する条件」

約30年前と比較すると
男性は女性に「経済力」
女性は男性に「容姿」
を求める割合が大きく増加

ただしいつの時代も一番大事な条件は互いに「人柄」です

男性→女性	第10回(1992)	第11回(1997)	第12回(2002)	第14回(2010)	第15回(2015)	第16回(2021)	29年の変化Pt (24年の変化)
家事・育児の能力や姿勢		86.8	89.9	93.1	92.8	91.4	4.6
学歴	29.8	23.5	21.0	26.4	30.6	27.3	-2.5
共通の趣味		70.5	75.2	75.4	73.2	73.2	2.7
経済力	26.7	30.8	29.5	38.7	42.0	48.2	21.5
仕事への理解と協力		88.2	88.1	89.0	88.2	88.6	0.4
職業	39.5	35.8	37.2	43.4	47.4	46.6	7.1
人柄	94.1	95.2	92.8	95.1	95.1	95.1	1.0
容姿	79.6	74.1	76.8	82.4	84.2	81.2	1.6

女性→男性	第10回(1992)	第11回(1997)	第12回(2002)	第14回(2010)	第15回(2015)	第16回(2021)	29年の変化 (24年の変化)
家事・育児の能力や姿勢		89.8	95.0	96.4	96.1	96.5	6.7
学歴	54.6	49.7	43.9	53.3	54.7	51.7	-2.9
共通の趣味		78.9	81.4	78.6	74.9	72.3	-6.6
経済力	88.7	90.9	91.1	93.9	93.3	91.6	2.9
仕事への理解と協力		88.4	92.4	92.7	93.2	93.4	5.0
職業	78.0	77.9	79.2	85.8	85.4	80.7	2.7
人柄	97.3	97.8	98.1	98.2	98.1	98.0	0.7
容姿	67.7	67.3	73.2	77.1	77.7	81.2	13.5

結婚希望は高いのに、未婚化が進行して 少子化が止まらない日本の処方箋

今の50歳代、60歳代とは**真逆**の「理想の結婚相手像」
＝男女ともに「子育て期も働き続けられる」安心安全な
2馬力家族を理想とする男女が激増して最多へ

「夫は仕事、妻は家庭」という役割分業意識、アンコンシャス・バイアスの排除

①家庭を大切に**する「家事育児重視の男性」**も当たり前前に活躍する
就業環境・企業風土の醸成

②**女性だから/男性だからこの産業、この業種、この働き方**
のような固定概念を打破する人材採用や活用
(×「女性の営業はうちにはいないんだよね・・・」(地方メーカーに多い))

世代構造上の「弱者」である若者の価値観によりそう中高年マジョリティを目指したい

全国(令和2年国勢調査) 2020年 1億2615万人

40歳代人口(最多世代人口) 1794万人

20歳代人口の1.5倍(50代人口 1631万人)

30歳代人口 1380万人

77%

67%
水準

20歳代人口 1196万人

人生100年時代だからこそ「アンコンシャス世代間モラハラ
(旧世代意識の押し付け)」のリスクは大きい

ひとりで生きていける
ふたりが、
それでも一緒にいるのが
夫婦だと思ふ

／Tiffany(ティファニー)広告より

ご清聴ありがとうございました



変わる時代の確かな視点

白秋社編集チーム 編著
ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチ
天野 馨南子 監修

未婚化 日本する



共同調査と
データが示す
社会

Before/With コロナに
生きる
社会を
みつめる

データで読み解く
「生涯独身」社会

天野 馨南子



定価 3,000円＋税